研究課題名	歯科的身元確認のための口腔内スキャナ装置活用による後方支援展開に向けた基盤研究
研究期間	２０２６年 10 月 14 日　～　2030年 3月 31 日
研究の対象	２０２４年１０月１日～２０２９年３月３１日に広島大学大学院医系科学研究科附属死因究明教育研究センター教職員がおよび日本大学歯学部法医学教職員が担当する歯科的身元確認のための歯科所見採取演習を受講した歯学部学生および歯科医師 　２０２４年１０月１日～２０２９年３月３１日に国際医療福祉大学にて法医解剖を実施する身元不明遺体
研究の目的・方法	**研究目的**：本研究は、災害時などに発生する身元不明遺体の身元確認に口腔内スキャナ（Intraoral scanner: IOS）を活用するために必要な実施体制の基盤構築を目的としています。具体的には、遺体への応用で想定される IOS 使用のメリット（心的・肉体的負担の軽減、被災地におけるマンパワー不足への対応、CT 情報を併用した復顔への応用可能性）の検証と、デメリット（適切な人材選定や訓練の必要性）に関する基礎情報の取得を行います。 **研究の背景**：災害時には多数の身元不明遺体が発生し、歯科所見は有用な身元確認手法ですが、現地で対応できる歯科医師は十分ではありません。また、災害現場では安全性やインフラ、物資不足などの問題が生じ、遺体安置所で歯科所見採取を行う人員が限られる可能性があります。さらに、過去の大規模災害では、身元確認作業に従事した人員の心的・肉体的ストレスが問題となりました。従来の歯科所見採取では、現地での作業量が多く、時間とマンパワーを要します。一方、IOS を用いる方法では、現地では簡易検査と画像試料採取のみで済むため、少人数での対応が期待されます。しかし、実際の遺体に対する IOS 活用の報告は少なく、正確性・有用性、腐乱や焼損など多様な状況でのスキャンに要する時間や補足作業、運用上の課題など、災害時の身元確認体制に IOS を導入するための基盤情報は十分ではありません。 **研究の方法**：本研究では、IOS を使用可能な施設の法歯学専門家が連携し、平時の教育現場や実際の事案を通じて、IOS 活用のメリット・デメリットを検証します。また、解剖時の CT 検査結果と口腔スキャナ画像を併用して顎顔面の骨格や位置を同定し、生前の顔貌復元に応用できる可能性についても検討します。これらの成果は、災害時の身元確認に IOS を展開するための基盤構築に大きく寄与するものです。 対象： ① 歯学部学生の方 　研究代表者が担当する「歯科臨床解剖学実習」ないし「臨床実

	習」で作成・提出した演習・実習の最終記録およびレポートの記載事項を個人が特定できないように加工して本研究に用います。従来の歯科的身元確認法と IOS を用いた方法での最終記録の正誤を解析し、各方法の正確性の比較・検証します。 ② 歯科医師の方 広島大学、日本大学、東京科学大学、国際医療福祉大学の本研究の研究者らが参画する歯科身元確認研修会において、質問紙への記入や心理テストへの回答に協力いただきます。また、研修会で実施する IOS でのスキャン、演習・実習時の最終記録、レポートを個人が特定できないように加工して本研究に用います。従来の歯科的身元確認法と IOS を用いた方法での最終記録の正誤を解析し、各方法の正確性および治療痕の種類や臨床経験による精度差等を検証します。 また、心理テストで演習または実習に伴う一過性の不安反応を評価し、 IOS を用いた遠隔支援や事前研修の効果について検証します。 ③ 身元不明遺体 解剖時の検査データ、画像検査データ、薬物検査データ、病理組織検査データ、解剖報告書を個人が特定できないように加工して本研究に用います。解剖時に実施する CT 画像を用いた咬合位復元において、スキャン画像の有無が復元精度に与える影響について比較検討します。 また、IOS によるスキャンに要した時間と課題点を評価して、遺体に対する IOS 装置の応用方法を検討します。
研究に用いる試料・情報の種類	演習・実習時の最終記録、質問紙への回答結果、スキャン時間、スキャン後のデータ変換時間、レポートへの記載事項 (広島大学分) 管理責任者 広島大学大学院医系科学研究科附属死因究明教育研究センター 主任特任学術研究員/特命講師　岡広子 （日本大学・東京科学大学・国際医療福祉大学分） 日本大学 教授　近藤真啓 情報：解剖時の検査データ、画像検査データ、薬物検査データ、病理組織検査データ、解剖報告書、スキャン時間、スキャン後のデータ変換時間 管理責任者 国際医療福祉大学

	助教　石井名実子
利用または提供を開始する予定日	2026 年 10 月１４日（実施許可日以降）
個人情報の保護	試料・情報は研究に使用する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し、代わりに新しく研究用の番号を付け、個人が特定できないよう加工した上で使用（提供）します。個人と連結させるための対応表は、各情報提供元の研究責任者が保管・管理します。
外部への試料•情報の提供	・共同研究機関への情報提供は、パスワードを施して保存した状態で共同研究者が直接運搬あるいは閉鎖クラウド上で送付します。
研究組織	本学の研究責任者 広島大学大学院医系科学研究科附属死因究明教育研究センター 主任特任学術研究員/特命講師　岡広子 研究機関の長 広島大学理事　田中純子 研究代表者 広島大学大学院医系科学研究科附属死因究明教育研究センター 主任特任学術研究員/特命講師　岡広子 共同研究機関 東京科学大学　　准教授　斉藤久子 日本大学　　教授　近藤真啓 国際医療福祉大学　　助教　石井名実子
その他	開示すべき利益相反はありません。 本研究で得られた試料・情報は、将来の医学・生命科学研究に利用される可能性があります。その際は、改めて倫理審査委員会の承認を受けたうえで研究に使用します。利用にあたっては、広島大学または共同研究機関のホームページ等で情報公開を行います。 広島大学（人を対象とする生命科学•医学系研究に関する情報公開） https://med.ethics-system.hiroshimau.ac.jp/rinri/publish.aspx
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に試料・情報が用いられることについて、ご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお、公表される結果には、特定の個

	人が識別できる情報は含まれません。 また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。 問合せ先 広島大学大学院医系科学研究科附属死因究明教育研究センター 主任特任学術研究員/特命講師　岡広子 〒734-8553　広島県広島市南区霞 1-2-3 電話番号：082-257-１７９４